

沖縄行政評価事務所



若手職員からのメッセージ



目次

若手職員のある1日

1

- | | |
|-----------------|---|
| ① 評価監視官室 | 1 |
| ② 行政相談課 | 2 |
| ③ 主任行政相談官室 | 3 |
| ④ テレワークを活用した働き方 | 4 |

入省後のキャリアパス(例)について

5

本省で活躍する当事務所採用の若手職員 5

若手職員のある1日 ①評価監視官室



[現職]

令和6年4月 沖縄行政評価事務所評価監視官室係員

[主な経歴]

令和5年4月 九州管区行政評価局（実務研修）

（業務の概要）

私は、行政運営改善調査に関する業務を担当しています。

行政運営改善調査とは、政府内にあって施策や事業の担当府省とは異なる立場から、複数府省にまたがる政策や各府省の業務の現場における実施状況を実地に調査するというものです。調査の実施に当たっては、若手職員だからといって雑務だけを行うということではなく、先輩職員たちにフォローしてもらいつつ、調査対象機関との連絡調整、実地調査から報告書の作成まで、責任がある業務を任されています。

（ある1日のスケジュール）

8:30

情報収集

出勤したらまず、その日の新聞記事などから、世の中の動きや行政上の課題をチェックします。今後の調査に繋がりそうな課題を見つけた場合には、関係機関へヒアリングを行うなどして情報を取りまとめ、本省へ報告することもあります。

9:00

調査準備

午後から全国計画調査のヒアリングのためにA市に出向くので、ヒアリング事項などについて、改めて確認します。調査で把握すべき事項を聞き漏らしてしまわないよう、できるだけ入念な事前準備を心がけています。

12:00

昼食

ヒアリングが午後の早い時間から始まるので、昼食はA市役所の近くで取ることに。普段なじみがない場所へたくさん行けることも、調査の楽しみの1つです。

13:00

ヒアリング調査

A市における廃棄物処理の実態について、担当部署にご協力いただき、ヒアリングを行いました。

調査テーマによって関係する法律や制度が変わるので、その都度勉強は大変ですが、業務を通じて初めて知ることも多く、知的好奇心が日々刺激されています。



15:30

調査結果のとりまとめ

調査終了後はすぐに事務所に戻り、忘れないようにヒアリングで把握した内容を取りまとめます。

写真：調査によっては実際の現場に赴くこともあります。（廃棄物処理場での調査）

17:15
以降

終業後の過ごし方

久々に大学の友人達と会い、お互いの近況を報告しました。進んだ道は異なりますが、気を遣わず言いたいことが言い合える関係性はこれからも大事にしたいです。

（受験生へのメッセージ）

私は、調査業務に惹かれて当事務所を志望しました。デスクワークだけではなく実際に現場を見に行くこともあり、調査を通じて地域をより良くしていくきっかけとなれるため、日々やりがいを感じます。出張時には、出張先のおいしいご飯が食べられたりすることもアピールポイントです！就職後のイメージが湧きづらく、色々悩まれている時期かもしれませんが、その分だけ皆さんの糧になると思います。頑張ってください！

若手職員のある1日 ②行政相談課



[現職]

令和5年4月

沖縄行政評価事務所行政相談課係員

[主な経歴]

令和4年4月

九州管区行政評価局（実務研修）

（業務の概要）

私は、主に行政相談に関係する会議や行事の企画・運営や行政相談委員の活動に対する支援業務などを担当しており、より多くの人に行政相談を身近なものとして感じ、気軽に利用していただけるよう、行政相談制度の普及に取り組んでいます。

特に1年で最も大きく重要な行事としては「行政相談月間」があります。同月間には、県内各地域で「一日合同行政相談所」等のイベントを開催しており、開催に向けた準備や調整で忙しくなります。

（ある1日のスケジュール）

8:30

メールチェック

朝出勤したらまずメールを確認し、総務課や総務本省から作業依頼や報告物の提出依頼等が来ていないか確認します。対応する必要があるものについては、どのように対応するか案をまとめ、上司に相談します。

9:30

行政相談委員の会議に関する資料の検討等

来月、私が行政相談委員の支援を担当する県中部地区において、同地区の行政相談委員を集めた会議と研修を開催することから、会議資料の案を課内で検討しました。課長からいくつか指摘を得たので、資料に反映させた上で、明日、所長へ説明することにしました。

12:00

昼休み

昼食の弁当は、自分で作ることを日課にしています。体を鍛えているので、普段から食べる物のカロリーや栄養素には気を遣っています。

14:30

一日合同行政相談所の開催に関する打合せ

行政相談月間に、B市で一日合同行政相談所を開催することから、同市を訪問し、市役所の担当者の方と相談所開催に関する打合せを行いました。



写真：定例相談所の支援のために出張した際に、行政相談委員と。

15:30

定例相談所訪問

この日は、毎月、B市の行政相談委員が市役所のロビーで開設している定例相談所の開設日でもあったので、事務所に戻る前に相談所に立ち寄り、最近の活動状況等について話を伺いました。

17:15
以降

終業後の過ごし方

学生時代から続けている格闘技の道場に週4、5回ほど通い、汗を流しています。格闘技を通じて体力と何事にも動じない心を養うことが、業務にも生かされていると感じています。

（受験生へのメッセージ）

行政相談業務及び行政運営改善調査業務を通じて、特定の分野だけではなく幅広い行政分野に携わることができる点が当事務所を志望した理由の一つです。多岐に渡る分野に携わるため難しい面もありますが、様々な分野の方々との関わりを通して、知識を深めることができるのは魅力だと思います。

2

当事務所に興味を持たれた方は、ぜひ業務説明会に参加してみてください。

若手職員のある1日 ③主任行政相談官室



[現職]

令和6年4月

沖縄行政評価事務所主任行政相談官室
行政相談官

[主な経歴]

平成26年4月

沖縄行政評価事務所（実務研修）

平成28年4月

本省行政管理局行政情報システム企画課

平成29年4月

本省行政評価局企画課

平成31年4月

同局行政相談企画課

令和3年4月

沖縄行政評価事務所総務課総務係長

(業務の概要)

国民の皆様から国の行政に関する苦情や意見・要望、担当窓口の照会などを受け付ける業務を行っています。

実際には、国の行政に限らず、沖縄県・市町村の事務事業に関する相談や、遺産相続の悩みについてなど幅広い相談が寄せられますが、どのような相談であっても、まずは相談者の悩みごとに真摯に耳を傾け、当事務所が相談者と関係機関との間に立って、何か相談者のお役に立てることはないか常に意識をして業務に当たっています。

(ある1日のスケジュール)

8:30

メール及び留守番電話のチェック

業務時間外にメールや留守番電話による行政相談の受付がなかったか確認し、あれば室内で共有した上で、どのような対応が必要か検討します。行政相談は、基本的には業務時間内に電話で受け付けることが多いですが、メールやインターネット等により24時間相談を受け付けることができる仕組みとなっています。

随時

行政相談電話への対応

行政相談の電話が掛かってきたら、室内の担当で交互に対応します。相談の電話を受けたことで初めて知る制度も多いですが、分からないことについて思い込みで回答することがないように、調べてから回答するようにしています。

相談対応で困ることがあったとしても、周りの経験豊富な先輩職員が気軽に相談に乗ってくれるため安心して対応することができます。

12:00

昼休み

業務時間内はどうしても相談対応で座っている時間が長くなることもあるため、外に出て食事をしたり、散歩をしたりして気分転換をしています。

15:00

事案処理に関する現地調査

「横断歩道の白線が消えており、危険なのでなんとかしてほしい」との相談が寄せられたことから、現地を確認することにしました。相談者の言うとおり、白線が殆ど消えて横断歩道があることが分かりづらくなっていたので、写真を撮り、横断歩道を管理する県警に状況を連絡しました。



写真：現地調査中の様子

17:15
以降

終業後の過ごし方

妻も仕事をしており、家事育児は協力して行っています。子どもの保育園への送り迎えは私の担当なので、迎えの時間に間に合うよう、その日の仕事に優先順をつけ、効率よく集中して仕事をするを心がけています。

(受験生へのメッセージ)

相談を受けることに抵抗がある方もいるかもしれませんが、それは私も同じでしたが、実際は、周りの先輩職員のサポート、一緒に働く同僚からのアドバイスもあり、安心して相談を受けることができます。また、相談者の悩みごとが少しでも解消されるよう、内容をよく調べ、よく検討し、関係機関と調整し、相談者に回答をすることで問題が解決して相談者に喜んでいただけた時には、非常にやりがいを感じます。

若手職員のある1日 ④テレワークを活用した働き方



[現職]

令和6年4月

沖縄行政評価事務所総務課会計専門職

[主な経歴]

平成27年4月

九州管区行政評価局（実務研修）

平成28年4月

沖縄行政評価事務所評価監視官室

平成30年4月

同事務所行政相談課委員係長

令和2年4月

本省政策統括官（統計制度担当）

令和2年10～11月 育児休業取得

（業務の概要）

当事務所においては、テレワークやフレックス勤務等を活用した柔軟な勤務が推奨されており、職員は、家庭の事情や本人の都合に応じて、普段から業務に使用している端末や自宅のパソコンを使用して、自宅や実家でテレワークを実施することができます。

私には、5歳と3歳の2人の子どもがいますが、子どもが体調を崩して保育園に預けることができない場合などに、テレワーク勤務を活用しています。

（ある1日のスケジュール）

8:30

テレワーク開始

テレワークを実施する際には、事前にその日どのような業務を行う予定か記載した業務計画を課長に提出し、テレワークの承認を得ます。そして、業務開始時には、課長と同じ課の職員宛てにメールで業務開始の連絡をします。

8:35

会計担当職員との打合せ

テレワーク中は、事務所で業務を行っている職員とはお互いの状況が分かりにくいことから、Teamsのウェブ会議システムやチャット機能を利用して、こまめに状況を確認し合うことにしています。

まずは同じ会計担当の職員と、今日中に行う業務とその進め方について、ウェブ会議システムで打合せをしました。

9:30

電子決裁のチェック及び承認

私が担当する会計業務においては、契約や経費執行に関係して日々何本もの決裁が発生しますが、その殆どがシステム化されていることから、テレワークでもほぼ問題なく業務を行うことができます。

12:00

昼休み

昼食後の時間を利用して、近所での用事を済ませることができました。テレワークは隙間時間を有効に使えるので、助かることも多いです。

13:30

本省が主催するオンライン研修の受講

ウェブ会議システムが普及したことにより、以前は本省まで出向かないと参加できなかった会議や研修にオンラインで参加できるようになりました。特に地方の職員にとっては、研修の受講機会が増えることは恩恵が大きいと感じています。

17:15

テレワーク終了

業務終了時には、業務開始時と同様、課長と同じ課の職員宛てに業務終了のメールをし、業務実績の報告を課長に提出します。本日もお疲れ様でした。

（受験生へのメッセージ）

当事務所では、テレワーク勤務でも登庁時とあまり遜色なく業務を行うことが可能です。家庭の事情で急遽登庁できないことや、勤務中に保育園からお迎えの呼び出しがあってもテレワーク勤務に切り替えることができ、柔軟な働き方が可能な点も魅力です。

また、当省は育児休業を取得する男性職員も多く、私も約1か月間育児休業を取得し、生まれたばかりの子どもと過ごすことができました。

「仕事も家庭も両立したい・・・」 そんなあなたにおすすめできる職場です！

入省後のキャリアパス（例）について

採用1年目
実務研修
(OJTによる研修)

採用2～3年目
本格的な業務開始

採用4～6年目
総務本省での勤務

当事務所（又は他管区局）において、原則として4か月毎に各部署に配属され、行政運営改善調査及び行政相談業務について、それぞれ先輩職員の指導を受けつつ、実際の業務に当たりながら業務の基礎を習得します。

当事務所において、行政運営改善調査業務又は行政相談業務に配属され、担当業務を持って本格的に業務に従事します。もちろん、わからないことがあれば周りの先輩職員がフォローする体制が取られています。

一通りの業務を自分の力でこなせる自信がついた段階で、総務本省（主に行政評価局）での勤務を経験します。

7年目以降は、2～3年のサイクルで異動（部署異動又は県外異動）を繰り返しつつ、キャリアを積んでいきます。

職員本人の希望や資質等によっては、本省や他管区局等での勤務もあります。本省勤務の場合は、行政評価局だけではなく、大臣官房や行政管理局等といった他部局での勤務、また、内閣人事局やデジタル庁等といった他省庁への出向の可能性もあります。

本省で活躍する当事務所採用の若手職員

（業務の概要）



[現職]

令和5年7月 本省行政評価局
評価監視官（財務、
文部科学等担当室）

現在、本省行政評価局の評価監視官室において、新規の行政運営改善調査のテーマの検討、計画の企画・立案に従事しています。

私たちが調査をすることで明らかにした情報が、国の各府省庁の取組の推進や改善の後押しに役立つものとなるよう、現状の課題や現場の困り事などの情報収集を行っているところです。

多角的な視点をもって調査に当たるために、行政の現場だけでなく、大学教授などの有識者や、民間企業に話を聞きに行くこともあります。

（受験生へのメッセージ）

[主な経歴]

令和2年4月 沖縄行政評価事務所
(実務研修)
令和3年4月 同事務所行政相談課
令和5年4月 本省行政評価局総務課
地方業務室

元々は市役所志望でしたが、自治体における行政課題の解決だけでなく、同じ課題を抱える県内、ひいては全国の行政区域で改善に向けた働きかけができる業務に、地元沖縄でも携わることができる点に魅力を感じ、入省しました。

幅広い行政分野に興味がある皆さまと、一緒にお仕事ができる日を楽しみにしております！